

日本三大美肌の湯・佐賀県嬉野市を知る、楽しむ

うれしのほほん



嬉野温泉



# うれしのほほん



歴史街道を歩む  
温泉にひたる  
茶を味わう  
町並みを巡る



# 小さな湯宿が歴史の中心に!?



江戸時代に整備された長崎街道。小倉から長崎までの57里(228km)を25の宿場がつないでいた。佐賀県内には13宿。その中の1つが嬉野宿だ。距離にしてわずか500m、通りには30軒ほどの旅籠のほか、木賃宿、商家など約100軒が連なる小さな宿場町だった。

嬉野宿の特徴は、佐賀藩が直営する公衆温泉があったこと。嬉野宿は別名「嬉野湯宿」と呼ばれ、小さいながらも古くから湯治場として旅人や近隣の人々に親しまれてきた。嬉野温泉については、8世紀に編纂された「肥前国風土記」に「東の辺に湯ありて、能く人の病を癒す」と記述があり、約1300年も前から、その存在は知られていたようだ。

長崎街道で温泉がある宿場は珍しい。当時、1日平均約10里(40km)を歩いたという旅人たちは疲れた体をゆつくりと癒やそうと、どの宿場よりも嬉野湯宿を楽しみにしていたのではないだろうか。

そんなのんびりとした雰囲気は漂う嬉野宿が一変する。それまで嬉野宿は大名や長崎の警固にあたる長崎奉行一行などが休憩するだけの宿場町に過ぎなかった。ところが、1791年牛津宿が大火に見舞われ大名や長崎奉行が宿泊する本陣が焼失すると、急遽、嬉野宿の瑞光寺が本陣に。嬉野宿は小さいながらも、重要な宿場町へと発展していった。

のほほん  
紀行

長崎街道嬉野宿

# 嬉野宿の街道筋を 歩いてみよう

## 老楠が歴史を語る 本陣・瑞光寺



嬉野宿の東西の出入り口には行き来する人を監視する木戸門が立ち、それぞれ東構口、西構口と呼ばれていました。街道筋には今もさまざまな旅館や店が立ち並んでいます。かつての西構口は現在のホテル大正屋のあたり。街道をはさんで前には大正5年創業の「あめがたや本舗」があり、あめがたやノンキーを作り続けてきました。長崎街道はシユガーロードと呼ばれ、菓子文化が伝わりました。店名にもなっている「あめがた」は水あめを煮詰めて何度も引き伸ばし、間に黒砂糖をはさんだもの。口でゆっくりと溶かせばやさしい味が広がります。滋養によいとさるあめがたで英気を養いながら、街道筋を歩いてみましょう。

まず、美肌の神様「豊玉姫神社」に立ち寄り美肌祈願。そこから程近い場所に「瑞光寺」があります。長崎警固に向かう長崎奉行の宿泊所で、約620年に創建された古いお寺です。本尊には運慶作と伝えられる薬師如来像が祀られています。同寺は1457〜1460年に現在の場所に移転しました。総門には樹齢800年の老楠が力強く立ち、3000坪の境内は緑豊かで木陰を作り、夏でも心地よい風が吹きぬけます。ひよっとすると長崎奉行も楠に寄り添い、この境内で涼んでいたかもしれません。



「瑞光寺跡」1457～1460年ごろ、境内が狭かったために現在の場所に移転したため、現在は案内板が立っているのみ



「西構口跡」ホテル大正屋付近は長崎街道嬉野宿の西の出入り口



瑞光寺の総門にある樹齢800年の大楠。どっしりと立ち歴史の移り変わりを見守ってきた



上／美肌の神様が祀られている「豊玉姫神社」



「あめがたや本舗」3代目中村与一さんとフジノさん夫妻



左／江戸時代、嬉野宿の中心にあった「豊玉姫神社跡」。藩営浴場に隣接し、温泉源があった。明治時代に現在の場所に移転

ただし、嬉野宿を治める佐賀藩の支藩・蓮池藩はそれを名譽と感じるよりも、長崎奉行の随行者約200人分の下宿の手配など手間や経済的な負担が大きく、「やめてほしい」と本藩に訴えることもあったとか。今も昔も悩みどころは変わらないようだ。

「開国を迫られ尊皇攘夷派、開国派など歴史が動き始める江戸末期になると、幕府役人や商人の長崎への出入りは頻繁になり、長崎に入る最後の宿場町としてさらに重要度は増した」と嬉野市教育委員会。うれしの茶を海外に初めて輸出した長崎の女性貿易商・大浦慶がいる。彼女は貿易を通じて世界に接し、幕府体制の不合理を感じていた日本の将来を担う志士たちに資金援助をしていたという。嬉野に縁が深い大浦慶と坂本龍馬ら幕末の志士たちは長崎から離れて、嬉野でつながっていたかもしれない。

しかし、坂本龍馬ら志士たちが嬉野宿を訪れたとしても、本名ではなく儀名を使っていたのではないか。仮にそうなら、嬉野宿の資料が残っていても坂本龍馬たちの名がこれから先も嬉野の表舞台に登場することはない。

そんな幕末の歴史とクロスさせながら、嬉野宿を散策するのも旅の楽しみなのかもしれない。龍馬の姿も通りに見えてくるような気がする。



「東構口跡」和多屋別荘付近にあった嬉野宿の東の入り口。長崎奉行もこの東構口から入り、体を休めて長崎へと向かった



市営公衆浴場「シーボルトの湯」はかつての藩営浴場。江戸参府をしたケンペルやシーボルトも利用した



湯遊広場にある「番号境界石」。江戸時代、平地部を蓮池支藩が、山間部を佐賀本藩が分割領有していた嬉野町の境界を示す。表面には漢数字がある



上/柳川杜氏が蔵人と共に酒造りをする「井手酒造」。疲れを癒やすのは酒造場内にある温泉だ  
右/嬉野宿、唯一の造り酒屋「井手酒造」の銘柄は「虎之児」。俳人・山頭火も好んだという



## たった2本の道に 往時をしのお

江戸時代、嬉野宿を通る道は長崎街道と、それに直角に交わる瑞光寺〜藩営浴場間の細い道の2本しかありませんでした。瑞光寺から今も残る細い道を歩いて行くと長崎街道と交わる角には「湯宿広場」と「湯遊広場」があります。どちらも気軽に利用できる露天風呂ならぬ無料露天風呂が整備されており、旅行者と地元の人たちのふれあいの場所になっています。足ふき用のタオルは持参してください。足湯を楽しんだあとは湯遊広場の前にあるうれしの茶のアンテナショップでのどを潤しましょう。

湯遊広場横のなだらかな坂を下りて行くと嬉野川沿いにオレンジ色が際立つ洋風な建物が建っています。ここはかつて藩営浴場があったところで、現在は公衆浴場「シーボルトの湯」として湯を楽しむ人でにぎわっています。市営公衆浴場の前には旅籠大村屋は日本行脚して日本地図を作ったことで有名な伊能忠敬の一行が宿泊所にしていました。

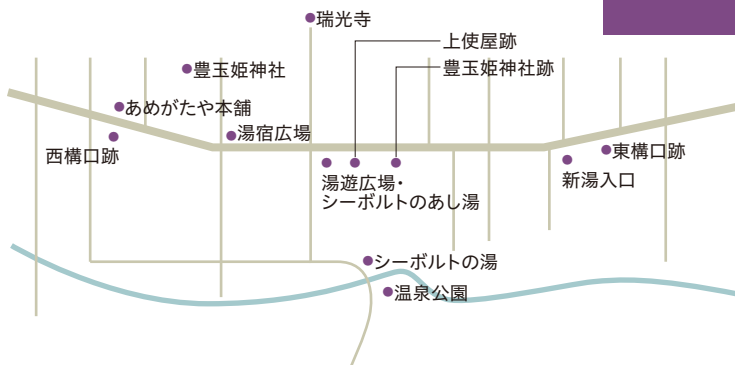
また湯遊広場に降り長崎街道に入ると、大名や長崎奉行、他藩の高級武士などが休憩した佐賀藩直営の茶屋・上使屋がありました。街道をはさんで向いには藩からの通達を掲示する大切な場所「高札場」があり、その隣には宿場ごとに乗り換える馬や、雇い人の継所「問屋」があったそうです。通りには嬉野町唯一の造り酒屋「井手酒造」がおいしい日本酒を続けています。和多屋別荘付近までくるともう東構口です。500mの嬉野宿の散策も終わりです。

### column.01

#### 歴史を如実に語る関所「俵坂関所跡」

佐賀鍋島藩と黒田藩の長崎警固、諸大名やオランダ商館長の参勤交代で往来が頻繁だった江戸時代、長崎の大村落との藩境を厳しく警備したのが俵坂関所跡。歴史を如実に語る場所です。関所には藩士1人と足軽9人が常駐し、大名が通る時には平伏して送り迎えをしたと言われています。通路には門札があり、その両脇には竹の柵が巡らされ、特にキリシタンの取り締りが厳しかったといわれています。

### のほほん マップ



みんなが安心して過ごせる嬉野温泉

# 美肌湯に心なごみ、体を癒やす



「日本三大美肌の湯」と称される嬉野温泉。静かに湯につかれれば、まるで絹を身にまとっているようなるつるすべ肌に変わる。

湯上がり肌のよさには理由は泉質にある。ナトリウム分を多く含む重曹泉が肌の余分な皮脂を落とし、角質化した肌をしつとりなめらかにするのだ。飲めば胃腸などの機能を活性化させ、湯に浸れば切り傷や冷え症、神経痛を癒やす。

そんな嬉野温泉の歴史は古い。文献に登場するのは713年「肥前国風土記」だが、それ以前には「神功皇后(170年〜269年ごろ)が戦の帰りに立ち寄り、白鶴が疲れた羽を川に浸し、元気に飛び立つのを見て、傷ついた兵士を入れると傷を癒した」という伝説が残る。嬉野温泉旅館組合によると「はつきりと史料に嬉野温泉が登場するのは戦国時代の末」。美肌の神様を祀る豊玉姫神社の「豊玉姫神社由緒書」に嬉野温泉が湯治場として利用されていたことが記されているという。

江戸時代、施設を整えた佐賀藩の藩営浴場が登場する。現在のシーボルトの湯の前身だ。塩田川のほとりのうっそうとした木々の中に建っていたとか。藩主は元より藩士や庶民という身分の違いで、浴場へと向かう道も施設の出入り口も違っていたそうだ。

明治に入ると藩営浴場の運営は町の有志たちが行い、名も「古湯温泉」と変わった。

の・ほ・ほ・ん  
紀行

嬉野温泉

# 美肌のために 嬉野温泉三昧

## 祈れば つるつる美肌に

「日本三大美肌の湯」の一つ嬉野温泉の泉質はナトリウムが多い重曹泉。無色透明、無臭でぬめりがあります。この泉質が肌にびたつとまとわりつき、角質化した皮膚をしっとりなめらかにして、みずみずしい美肌に仕上げてくれます。体の芯まで温まれば肌もほぐれます。

温泉地として長い歴史があるだけに町は美肌一色。泉質以外にも美肌効果を与えてくれるものが町に揃っています。嬉野温泉街の中心にあるのは豊玉姫神社。祀られている豊玉姫は海の神の娘・竜宮城の乙姫様で肌が白く美しかったことから「美肌の神様」として、人々に知られています。境内の中央のなます社に鎮座する1.1mの白い「なます様」は豊玉姫の使い。水をかけ、白い「なます様」をしつかりなでて、祈れば美肌に「ご利益があること間違いなし」かも。

美肌のためには肌の血行をよくするのが一番。手っ取り早いのが足湯。「湯宿広場」と「湯遊広場」にはあし湯が整備されており、営業時間内であれば何時間いてもOK。ちなみにココで出会ってカップルになった人もいます。縁結びの神もこっそり見守っているのかもしれない。



美肌の湯の源泉そのものをミスト化した、全国的にも珍しいあし蒸し湯も好評



白なますには美肌だけでなく、皮膚病にもご利益が...



観光客と地元の人との触れ合いの場でもある「シーボルトのあし湯」



当時の旅館には内湯がなく、宿泊客は誰もが古湯温泉を利用したそう。浴場内には全国各地のお国言葉が響いていただろう。大正時代によくやく旅館に内湯ができる。

湯治場の役割は昭和に入っても続くが、昭和30年代、高度成長期に団体客が押し寄せ、湯治場の機能は薄れていった。「当時、芸者衆が300人もいて賑わっていた」と当時を知る長老は振り返る。

バブル経済がはじけると「団体」から一氣に「個人の満足」へシフト。時代とともに嬉野温泉の様子も変化していく。

しかし、どんなに時代が変わっても変わらないものがある。それは神功皇后が発見した時から続いてきた嬉野温泉の泉質のよさだ。その大切な恵みを原点に、おもてなしの心を磨き続けてきた。その結果、かつて男の町と言われた嬉野温泉には、今では女性が男性を連れてくるようになった。

もてなしの心は障がい者にも健常者にも、外国人にもすべての人に向けられる。全国有数のUD(ユニバーサルデザイン)温泉地だ。乳がん患者が手術後、遠のきがちな大浴場の温泉につかり、体験や悩みを語り合う「ほっとマンイン嬉野」も行う。

嬉野温泉は安心して心身を開放できる癒しの湯治場として訪れる人を温かく迎え入れている。



地元の人に親しまれる嬉野温泉のシンボル

自宅で気軽に嬉野温泉が楽しめる  
入浴剤「日本の名湯 嬉野」



嬉野温泉水やうれしの茶のエキスを使った  
美肌オリジナル商品で肌にやさしく



すべてのひとにやさしいバリアフリー対応の客室

日帰り美肌美人になりたいという人に重宝なのが公衆浴場「シーボルトの湯」。塩田川沿いにオレンジ色が際立つ「トンガリ屋根」の洋風な建物には湯を楽しむ人が多く訪れてにぎわい、嬉野温泉のシンボルになっています。「シーボルトの湯」は藩営浴場があったところで、佐賀藩主一族も訪れていたといえます。長崎から入ったオランダ人医師ケンペルやシーボルトも利用した記述があり、冷泉が多いヨーロッパに比べて、90度の温泉が沸き出す嬉野温泉を不思議に感じていたようです。浴場にはバリアフリー対応の貸し切り湯もあります。嬉野温泉の宿にあるバリアフリー対応室数は全国トップクラスです。部屋や段差などハード面だけでなく、旅館に外国語を話せるスタッフを常駐したり、外国人などすべての人が安心して美肌の湯を楽しめるように配慮しています。

せっかく嬉野温泉で美肌をゲットしたら、自宅でも徹底的に嬉野温泉三昧。嬉野温泉旅館組合「おかみの会」の女将たちが自ら試して納得してオリジナル商品にしたのが、嬉野温泉を使った「美肌湯けむり嬉野石鹸」「うれしのほほん嬉野温泉化粧水」です。自宅に戻ったら、ぜひ化粧水と石鹸で美肌を保ち続けてください。自宅のお風呂を嬉野温泉に早変わりさせる「日本の名湯嬉野」もあります。どっぷり嬉野温泉生活を送ってみてはいかが。

## 女将たちが試して納得のオリジナル美肌商品

### column.02

#### 佐賀嬉野バリアフリースターセンター

「ひとにやさしいまちづくり」を目指す嬉野温泉。バリアフリーが進んだ旅館や商店の紹介のほか、車いす対応や多機能のトイレが単にどこにあるかだけでなく、広さ、付近の段差、スロープの角度、ドアの形状など細かいところまで調べたユニバーサルデザインマップを作成するなど、障害者だけでなく、高齢者、ベビーカーが必要な子どもがいる家族が安心して楽しめるように情報を提供しています。



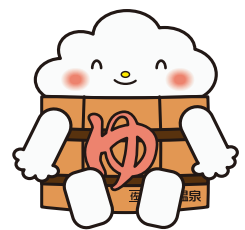
のほほん  
マップ

嬉野温泉観光協会  
バリアフリー  
ツアーセンター



うれしの茶にも熱く語れる物語がある

# 茶の歴史を知る不動山



日本のお茶栽培は佐賀県から始まった。1191年、臨済宗の開祖・栄西禅師が宋の国から持ち帰った茶の種を佐賀県東脊振村の山腹に植え、ここで育った茶の種と製造方法が京都の宇治や静岡に広まったという。

「うれしの茶」は佐賀でありながら、栄西禅師の流れとは違う。明の陶工が焼きものとともに嬉野に自家用の茶栽培を持ち込んだことが始まり。1504年には紅令民が明から茶を炒る南京釜に嬉野に持ち込み、うれしの茶の代名詞ともいえるうれしの方式の「釜炒り茶」が生まれた。

嬉野で本格的に茶葉製造を生業にできるようにになったのは1651年ごろ。その立役者が地元の人たちから「うれしの茶の父」と親しまれている吉村新兵衛だ。彼は嬉野町不動山の山林を切り開いて茶の栽培を進めた。不動山にある国の天然記念物「大茶樹」は吉村新兵衛が植えたといわれる。

「不動山で茶栽培を始めたことに大きな意味がある」と嬉茶楽館(茶業研修施設)の館長は言う。おいしい茶葉ができる大切な条件は3つ。朝晩の寒暖の差が大きく、新芽が出る4〜5月ごろには朝霧が出て生葉に適度な水分が与えられること。それと良質な土壌。吉村新兵衛が選んだ不動山の土にはアンモニア窒素など茶葉づくりには重要な成分がしっかりと含まれて、



の・ほ・ほん  
紀行

うれしの茶どころ

# 釜炒り茶の味を求めて ふるさと巡り



うれしの茶は、平成21年～24年の蒸し茶製玉緑茶部門で、全国品評会において、4年連続農林水産大臣賞及び産地賞(嬉野市)を受賞。岩屋川内地区は、品質の良いお茶の産地として有名。

## うれしの茶は 「煎」がきくグリ茶

釜炒り茶で知られるうれしの茶は、茶葉にも特色があります。見た目が丸くグリグリしていることから、玉緑茶(グリ茶)と呼ばれています。グリ茶を釜で炒って揉み乾かして発酵を止めたものを「釜炒り玉緑茶」、蒸したものを「蒸し製玉緑茶」といいます。味の違いは、前者は、釜香がさわやかで喉ごしがさっぱりとしたお茶で、後者は深く豊かな香りとまろやかな味わい特徴です。うれしの茶は1煎目も2煎目も、おいしい緑茶に欠かせない「色」「香り」「味」がよく出るのが特徴で、それを「煎がきく」と言います。

緑茶は抗酸化作用や抗菌作用があるカテキン、新陳代謝を促進するカフェイン、リラックス効果があるテアニンのほか、ビタミン類なども多く含まれているために健康と美容にやさしいと言われています。

嬉野町岩屋川内地区は嬉野の中でも品質の良い産地として有名です。山間部の斜面には段々の茶畑が続き、春には茶葉の緑が鮮やかで景色としても楽しめます。ふもとには20の茶工場があり、新茶のシーズンはお茶の香りに包まれます。4月下旬から5月上旬の休日には新茶の試飲スポットも設置されます。美しい景色もお茶もおいしい「岩屋茶(ティー)ロード」にでかけてください。



茶葉づくりには最も適した土壌だった。

今の科学技術では土壌の質は簡単に知ることができるが、当時、寒暖の差や朝霧は体感できても土壌は難しい。もし、わかつて切り開いたならすごいことだ。不動山と茶の相性のよさを知っていたのは、吉村新兵衛の経験からなのか、それとも勘のよさなかわからない。植えてから茶葉が摘み取れるようになるまでには3年かかるという。答えが出るまでは大きな賭けだったに違いない。

うれしの茶が始まって400年。佐賀県の茶葉生産量は全国8位(唐津なども含む)。茶にかかわり、生業にする人は嬉野町内で500人にもなった。吉村新兵衛の賭けは嬉野の基幹産業として花開いた。

日本の茶栽培の発祥地から始まった佐賀は以後も茶とのかかわり深い。京都で日本初の喫茶店「通仙亭」を開き、庶民に煎茶を広めた煎茶の祖・売茶翁(ばいさおとう)を生み出した。

1853年には幕末の志士たちを支援した長崎の女性貿易商・大浦慶がイギリスやオランダへ大量に送り出している。うれしの茶のおいしさは海外の人々の心も動かしたようだ。

うれしの茶の生産者は今も試行錯誤し自慢の味を作る。物語も注ぎ込んで茶の香りとともに味わって欲しい。

# 必見！ うれしの茶のシンボル 大茶樹

推定樹齢350年、うれしの茶の父・吉村新兵衛が不動山で植えた茶樹のうちの1本といわれている「大茶樹」は枝張り80平方メートル、樹高約4.6メートルと巨大な茶樹です。うれしの茶のシンボルで、国の天然記念物にも指定されています。

吉村新兵衛が育てたうれしの茶は、今、嬉野温泉にも利用されています。石が作られた大きな急須からうれしの茶がそそがれる露天風呂。お茶と嬉野温泉の成分が合わさって湯の色は茶褐色に変化します。茶の温泉に浸りながら、茶葉が入ったパックで顔や手足をパッティングすると美肌にも効果倍増です。

嬉野にはうれしの茶の効能を最大限に生かそうと、「嬉野温泉旅館組合」おかみ会」の女将たちが試して納得してオリジナル商品があります。うれしの茶や、うれしの茶のエキスを使ったつるつるすべすべお肌になる「うれしの茶の美肌石けん」「うれしの茶クレンジングフォーム」「うれしの茶ボディソープ」「うれしの茶リンスinシャンプー」です。お土産としても手軽で喜ばれ人気があります。

嬉野温泉の中心街には、嬉野温泉の特産品がずらりと揃い、嬉野の情報がゲットできる「嬉野交流センター」があります。嬉野温泉巡りは「嬉野交流センター」からはじめてみませんか。



女性に人気の「茶風呂」



日本最古の茶樹「大茶樹」



嬉野のお土産や情報のチェックなら「嬉野交流センター」



## column.03

### 「煎茶の祖」高遊外売茶翁 (1675-1763年)

煎茶を広めた高遊外売茶翁は、佐賀藩本藩とともに嬉野と塩田も治めていた佐賀藩蓮池支藩(現・佐賀市蓮池町)出身。つまり、同じ領地に煎茶の祖が生まれ、うれしの茶が育っていた。塩田には売茶翁の父・柴山権現の墓もあり、嬉野地区との縁は深い。京都に日本初の茶店「通仙亭」を開いたときにはひょっとするとうれしの茶も利用されていたかも。すると日本初のアンテナショップかもしれない!?

のほん  
マップ

伝統伝える職人と商人の町・長崎街道「塩田道」塩田宿

# 人と物資が集まる交通の要衝

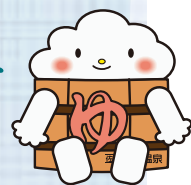


平安の女流文学者を代表する恋多き歌人・和泉式部が幼少時代を過ごした塩田。江戸時代には、長崎街道「塩田道」の宿場町としてにぎわい、古くから塩田川の水運を利用した、水陸の要衝として発展した。

肥前国風土記に「潮高満川」（潮が高く満ちる川）と記されている塩田川。有明海の満ち潮を利用して船が往来して栄えた塩田津の港には、有田焼の原料である天草の陶石や農産物といった荷が運ばれ、塩田の粘土を使って焼いた志田焼の大きな水壺は塩田津を出て、途中で積み変えられて遠くインドまで送られた。物が集まるころには人が集まり、人が集まるころには商売人が集まるもので、塩田川沿いや街道沿いには船頭や蜷屋、饅頭屋、陶器屋、銀細工屋など多種多様な商家がびっしり連なっていました。商人など各地から宿を訪れた人たちが食事をしたり、商売の交渉をしたり、商店の客を呼び込む威勢のいい掛け声が聞こえたり、故郷への土産を買ったりと通りには多くの人が行き交いにぎやかだっただろう。それを証明するように、1866年の伊東家文書「塩田町絵図」には100を超す商家が描かれている。長崎出島のオランダ商館医ケンペルの『江戸参府旅行日記』にも「塩田村に一泊。ここは煙の多い村」とある。窯元が焼きものを焼成するときの煙や、旅籠や家庭のカマドで煮炊きをするときの煙が町を覆っていただろう。生活の匂いが漂ってくる。



# 昔の賑わいをほうふつとさせる 旧街道筋



町の通りには大型の町家が続き、家の角や、町中には現在も恵比須像が祀られ、当時の賑わいが感じられる塩田宿の町並み



有田焼の原料・天草陶石などが荷揚げされた「塩田津荷揚げ場跡」



船で運ばれてきた陶石などを量った「検量所跡」



江戸時代を中心にした民芸品などを多数展示している「長崎街道塩田宿レトロ館」



居蔵造の大型町家「杉光陶器店」



豪商・廻船問屋の屋敷「西岡家住宅」

## 江戸期の商家や町家が連なる

塩田宿は有明海につながる塩田川の川港があったことから、塩田津とも呼ばれています。塩田宿の街道筋と平行して流れる塩田川の川港は昭和40年代まで利用されていました。川港の「塩田津荷揚げ場跡」が今も残っています。

荷揚げ場跡のそばには荷の重さを計った「検量所跡」があります。現在は観光案内所「町並み交流集会所」として新しい役割を担っています。川沿いには1階には荷揚げした物資を保管し、2階には商談や船乗りや商人が休憩をした「座蔵」と呼ばれる建物が連なっていたそうです。座蔵へ向かう「タナジ」と言われる石段も川沿いにところどころに残っています。

旧街道筋に入ると、かつての賑わいをほうふつとさせる大きな商家や町家が続く町並みが続いています。「町並み交流集会所」に隣接する旧下村家住宅は、江戸期に建てられた草葺きの民家です。近くに約160年前、江戸後期に建てられた豪商・廻船問屋だった「西岡家住宅」があり、国の重要文化財になっています。すぐそばには江戸末期建築の居蔵造りの大型町家「杉光陶器店」があります。三の蔵は明治末から大正初期まで塩田銀行として利用されていました。

築100年を超す元菓屋がギャラリ―「長崎街道塩田宿レトロ館」、古い町家が食事処としても活用され、かつての面影を残しつつ新しい息吹を注ぎ込まれています。

しかし、いろんな恩恵をくれる塩田川だが、少しの雨でも増水し、旅人の行く手を阻んだそう。度重なる足止めは不便なことも多く、江戸時代末期には嬉野までのルートができ徐々に塩田宿もだんだん静かな宿場町に変わっていった。

そんな塩田宿の往時の面影は今でも色濃く旧街道筋に残る。通りの両脇には外壁を漆喰いで塗り固めた居蔵造りの陶器店など古い商家が12軒も残り、町角には商売繁盛を願い祀られた恵比壽さんがいつもと変わらない笑顔で行き交う人を見守っている。その通りを歩くだけであつた賑わいが聞こえてきそうな塩田宿は、平成17年、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定された。

長崎街道は、別名「シュガールード」と呼ばれ、砂糖を使ったお菓子の文化が開花していた。塩田にも菓子文化が根付き、祝いごとのときに使う砂糖を水で煮溶かして固めた「金花糖」を作る菓子屋や飴屋など10数軒あつたという。今では伝統菓子を作る店は、極端に少なくなつてしまつたが、「残していかなくては」という思いを持った菓子職人の手によつて、次の世代へ伝統の技を引き継いでいる。



砂糖を水に加え125度の温度で煮つめ、鯛などの形をした型に入れて固めた砂糖菓子「金花糖」

# 佐賀の窯業を支えた 志田焼

長崎街道をはさんで鍋島藩本藩の領地・東山区と支藩蓮池藩の領地・志田西山地区で作られていた志田焼。16世紀後半、志田焼が作られたのは陶器でした。しかし、塩田宿には天草陶石が荷揚げされたこともあって、磁器が作られるようになりました。特に染付の皿製品が大量に作られ、幕末期には佐賀で生産される磁器の半数にも及んだとか。

大正から昭和になると火鉢や日用品など日々の生活に欠かせない陶磁器を大量生産し、全国に向けて出荷されるようになります。大量生産の拠点になったのが大正3年に、長崎街道沿いに創業した製磁工場。23棟ある大規模なもので陶土製造から焼成まで全工程を行うという近代化された工場でした。時代の変化とともに生産量が減り、昭和59年に閉鎖されました。

その工場跡は大正・昭和期の施設や道具が残る貴重な資料として「志田焼の里博物館」として保存され、「近代化産業遺産（経済産業省）」にも認定されました。中に入れば今にも職人さんの息遣いが聞こえてきそうです。国内最大級だった窯ではコンサートをしたり、ロク口体験をしたり、さまざまな形で利用されています。

工場に隣接する「志田陶磁器」の3階にある「志田焼資料館」には今ではほとんどお目にかかることがない江戸初期の志田焼が展示されるなど、志田焼の移り変わりがわかる貴重な資料があります。佐賀の窯業を支えた志田焼の里にぜひ足を運んでください。



大正時代に建てられた志田焼を納める焼きもの倉庫「志田の蔵」。現在は販売場として活用

志田焼を知るためにぜひ足を運んでほしい「志田焼資料館」



地元有志が集まり卸業として明治期に創業した志田陶磁器(株)が作った志田焼生産の工場跡「志田焼の里博物館」



## column.04

### ▼塩田津のこと詳しく案内

#### 観光ボランティア「塩田津町並み保存会」

地区住民をはじめとした約200人が登録している「塩田津町並み保存会」。観光案内所「町並み交流集会所」を拠点に江戸後期の商家や町家や町並みが残る塩田津の修理家屋の見学会を開いたり、イベントや塩田津のマップを作成したり、観光ボランティアとして町並みの案内役を務めています。観光ボランティアだけが知っている秘密スポットを教えてもらえるかもしれません。ぜひ利用してください。

●お問合せ・申し込み／塩田津町並み交流集会所 ☎0954-66-3550

のほほん  
マップ

作り手の思いのままに

# やきもの体験



## 【肥前吉田焼窯元会館】

肥前吉田焼の手びねりや絵付けの体験ができるのが肥前吉田焼のショールームがある肥前吉田焼窯元会館。陶土をグチャと崩してみたり、ひも状に伸ばしたりして手触りや重さ、筆の走り具合などを肌で感じ、自由な発想で楽しんでほしいと、やり方を説明したあとは体験者の思いのままに。もちろん、必要があればアドバイスするという柔軟なスタイルの体験場です。旅の思い出に自分だけの器を作ってみましょう。

DATA.....

所 ● 嬉野市嬉野町吉田4525・1

電 ● 0954・43・9411

休 ● 12月29日～1月1日

【絵付け】

ストラップ、湯のみ、皿、マグカップなど

【手びねり】

製作時間／約2時間



ureshino-experience.

# うれしのツアーリズム

うれしのを自由きままに体験しよう！

色と香りの変化が楽しみ

# うれしの茶体験

## 【茶業研修施設嬉茶楽館】

### 茶染め体験

うれしの茶を煮出して作る天然の染料でハンカチを美しい緑茶色に染めてみませんか。自然に出来る色むらを楽しんだり、輪ゴムやひも、割り箸を利用して染める部分と染めない部分を使って、自分の思い通りのデザインを作り出したりしてみましょう。

体験は指定の温度に湯を沸かして茶葉を入れ煮出し、そこにハンカチを入れるだけ。周囲は茶の香りに包まれて



### 釜炒り茶の手揉み体験

緑に染まる茶畑で茶摘みと釜炒り茶の手揉み体験を茶の本場でどうぞ。

よく「二芯三葉」といわれますが、茶葉は新芽の先端から3枚目までを摘み取ります。摘んだ生葉は300度以上に熱した鉄鍋で焦がさないように一気に炒り、ざるに上げて全体重を両手に



かけて揉み水分を押し出して冷やします。これを繰り返しカラカラ乾燥した芳しい香りの釜炒り茶に仕上げてください。茶摘みは季節限定で減多にできない体験です。茶摘みが出来れば、その日は何か嬉しいことが起きるかも。

DATA.....

所 ● 嬉野町岩屋川内乙2713

問 ● 嬉野市茶業研修施設嬉茶楽館

電 ● 0954・43・5266

【茶染め体験】

料 ● 1人1,000円(材料代込み)

人 ● 2人以上30人まで

10人以上の団体は予約が必要

時 ● 約1時間

【釜炒り茶の手揉み体験】

料 ● 1人500円(材料代込み)

人 ● 10人以上30人まで

7日前には予約が必要

時 ● 約2時間

体験時期は6月中旬～8月上旬

9月下旬～10月下旬

※対応できない場合もあるので確認を

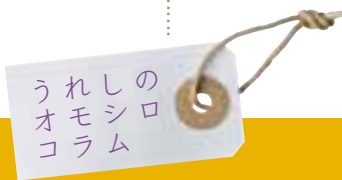
## 【志田焼の里博物館】

職人たちの息づかいが聞こえてくるような往時を偲ばせる場所で、ランプシェードづくりが楽しめます。あらかじめシェードの型に形成された生地に、型抜きなどを使って印をつけ、光が出る部分を細いナイフで掘り込んで穴を開けていきます。どの部分に穴を開けて部屋の中に温かい光を誘い込むかは、それはあなた次第です。

そのほか絵付け体験や、ろくろ体験もできます。まずはランプシェードからいかがですか。



DATA  
 所 ● 嬉野市塩田町久間乙3073  
 電 ● 0954・66・4640  
 休 ● 水曜 入館料 ● 300円  
 【絵付け】  
 皿、湯のみ、茶わん、マグカップなど



## 旅館VS宿泊客！ 嬉野温泉名物・スリッパ温泉卓球大会

「温泉旅館と言えば卓球」ということで、旅館代表者と宿泊客がスリッパをラケット代わりに各旅館が提供した豪華賞品をかけて、イザ勝負!! 選手ユニフォームは旅館の浴衣で5ポイント先取したほうが勝ちです。浴衣のはだけもなんのその。一球入魂、ストレス発散。「サー」の掛け声とともに、相手コートにスリッパで球を叩き込んでやりましょう。

問 ● 嬉野温泉旅館組合 電 ● 0954-42-0240  
 【開催】毎月最終日曜、公衆浴場シーボルトの湯 前ガレージにて



# ふぞろいも味わいのひとつ 手すき和紙体験

旅の思い出綴る  
お手製のハガキ

「鍋野手漉き和紙工房」では、鍋野手漉き和紙づくりの体験ができます。乾燥させたコウゾの皮を煮て柔らかくし、水洗いを繰り返して作った白い繊維の塊とトロアオイで作った糊を合わせた原料液を型に汲み入れます。厚みが均一になるように縦横に揺すって、よく繊維を絡み合わせます。水分を切って紙床に伏せて乾燥させれば出来上がり。時間にして約30分。厚みが均一にならなくても味わい深いものです。旅の思い出をお手製のハガキにしたためてはどうですか。



DATA  
 鍋野手漉き和紙工房  
 問 ● 嬉野市商工会  
 電 ● 0954・66・2555  
 開 ● 10時～16時  
 営 ● 日曜・祝日のみオープン  
 時 ● 約30分





## さっぱりとした味とほのかな茶の香り 〈茶しゃぶ〉

嬉野市は全国でも有数の茶の産地。特産のうれしの茶を使った「茶しゃぶ」は、しゃぶしゃぶのだし汁に茶を加えたもの。緑の色を引き立たせるために抹茶も少々。このだし汁に肉を泳がせれば肉の臭みが消え、肉の脂分を落としてさっぱりとしてヘルシーで、口に運べばほかに茶の香りが広がります。お茶にはカテキンがたっぷり含まれているから、しゃぶしゃぶに使用すれば効果的に摂取できるのもうれしい限り。茶しゃぶをおいしく食べて嬉野温泉に浸れば、体の中と外からダブル効果でつるつるの美肌になること間違いなし!?



## 2つの味が楽しめるうれしの茶 〈うれしの茶〉

おいしい茶葉ができる気候や土壌が整った嬉野に育ったうれしの茶。1煎目も2煎目も「色」「香り」「味」がよく出るために「煎がきく」と言われ、見た目が丸くグリグリしていることから、玉緑茶(グリ茶)と呼ばれています。玉緑茶を釜で炒り揉み乾かして発酵を止めた「釜炒り玉緑茶」は香ばしい香りがして、すっきりとさわやかな味わいがあり、蒸した「蒸し製玉緑茶」は美しい緑色が目に鮮やかで、甘みとまろやかさがあります。2つの味が楽しめるうれしの茶をぜひ、飲み比べてください。



## 芳醇な香りとまろやかな口当たり

〈地酒〉東一・東長・虎之児

自然が豊かで田園地帯が広がる米どころ佐賀は九州でも有数の酒どころ。酒の味を左右する水も豊富で、昔から酒造りが盛んでした。今も多くの蔵元があり、競い合い、助け合って上質の酒造りを続けています。嬉野市には3つの蔵元があり、それぞれの蔵元の杜氏が造る大吟醸、吟醸純米酒など日本酒は芳醇でフルーティー、口当たりがまろやかで、きれいな味がよく、全国でも高い評価を受けています。嬉野の名物「温泉湯どうふ」にもぴったり合うのが地元で生まれたこの地酒。ぜひ、試して見てください。お土産にしてもgood!



## うれしの 自慢の 逸品

Ureshino Best Choice



うれしには、

自然や職人によって育まれた

自慢の味と逸品がいっぱいです。

## 嬉野温泉の魔法でとろり

〈嬉野温泉湯どうふ〉

嬉野温泉の恩恵が2つある。1つは美肌の湯、もう1つは温泉湯どうふです。煮詰めると硬くなるのが当たり前の豆腐ですが、“アブラカタブラ〜”嬉野温泉の魔法にかかれば、アラ不思議!煮汁が徐々に白濁し、土鍋の中で機嫌よく泳いでいた豆腐がスベスベ肌のとろりとした湯どうふに大変身! 味も舌触りもまろやかになります。実はこれ嬉野温泉の成分が、豆腐のたんぱく質を分解するからとろりとした湯どうふになるんです。栄養たっぷりの豆腐と体にやさしい温泉水の効果で体の中から癒やし、美肌の湯で体の外からも癒やされましょう。





## 後味すっきり。和食によく合う紅茶

〈うれしの紅茶〉

うれしの茶と言えば緑茶が有名ですが、もう1つ評判なのが「うれしの紅茶」。17年ほど前、現在のうれしの紅茶振興協議会一行が「世界の茶の故郷」である中国雲南省の紅茶に出合ったことがきっかけで紅茶づくりにチャレンジ。嬉野で育った緑茶葉の二番茶を摘み、2日間ほど寝かせてしおれさせてから揉んで発酵と乾燥を行うと、ほんのりとした柔らかい香りのうれしの紅茶ができあがります。外国のものとは比べ香りに癖がなく、後味すっきりで、和食によく合います。歴史は浅いですが、レベルの高い逸品です。ケーキと一緒にアフタヌーンティーにもどうぞ。



## 祝いの席に欠かせない砂糖菓子

〈金花糖〉

シュガーロードとも呼ばれる長崎街道にある塩田宿には、当時は貴重だった砂糖を使った菓子屋や飴屋が並び、菓子文化が定着していました。その中で砂糖を水で煮溶かして、鯛などの型に流し込み固めて、表面を彩った「金花糖」は菓子職人の手によって受け継がれ、今でも結婚式や建ち家など祝いの席には欠かせない祝菓子として利用されています。最近では作る人も少なくなった金花糖ですが、この貴重な砂糖菓子の味をうれしの茶とともに楽しんでください。



## 中は空洞!?

### シンプルな味の伝統焼菓子

〈逸口香(いっこっこう)〉

一見するとどら焼き? 小さなホットケーキ? いやいや、それは逸口香です。江戸時代中期に中国から伝わったと言われる伝統の菓子です。まん丸の生地はこんがり焼き色。かぶりつくとパリッと心地よい音とともに割れると中はなんと空洞。内側は黒糖でコートされている。素朴な味わいですが、なかなか癖になりそうな佐賀でも人気のお菓子です。逸口香は優れた香りが口に広がるという意味があるとか。自分で試してください。



## うれしの茶のうまさがスイーツに

カテキン、ビタミンなどを豊富に含み美容と健康にも効果がある、うれしの茶をつかったお菓子やスイーツがたくさんあります。フィナンシェのような焼菓子やクッキー、プリンや饅頭などいろいろな種類があります。嬉野交流センターにもいろいろ展示してあるので、是非立ち寄ってみては。



オススメ  
お土産

## 肥前吉田焼

嬉野温泉街の南東、静かな山あいにある肥前吉田焼の里・吉田皿屋地区。肥前吉田焼は古くから丈夫で使い勝手がよい茶わんや湯のみ、急須など人の生活に即した普段使いの食器を作り続けてきました。肥前吉田焼を伝える窯元は現在8軒。伝統的な技法を使った作風と、時代の変化に合わせた作風があり、400年という伝統産業でありながら非常に自由な感覚で作られる肥前吉田焼は全国で日々の生活に馴染んで使われています。旅の思い出をいつまでも。食卓を楽しく演出する普段使いの器をどうぞ。



## うれしのあったかまつり

●2月上旬

嬉野温泉街に華灯籠が立ち並び、茶染めの暖簾がそれぞれの店先にかけてられる中、多彩なイベントが行われます。郷土芸能を觀賞しながら、郷土料理を味わう「郷土芸能の夕べ」も行われます。地元の人との交流が楽しめるイベントがたくさん用意されています。

開催場所 ● 嬉野温泉本通り

問合せ先 ● (社)嬉野温泉観光協会 ☎0954-43-0137



## 嬉野温泉夏まつり

●8月11日

嬉野温泉で開催される夏祭り。メイン会場のみゆき公園では、「二尺玉」の大玉花火や仕掛花火「ナイアガラ」など約2500発を打ち上げる花火大会を催します。二尺玉の大迫力は体感ものです。

開催場所 ● みゆき公園

問合せ先 ● 嬉野市商工会 ☎0954-43-1236



## 嬉野温泉梅まつり

●2月下旬～3月上旬

約400本の梅が咲き誇る「みゆき公園梅林園」を会場に、誰でも参加できるイベント。甘酒、お茶、紅茶、湯どうふなどのふるまいや特産物の販売等、家族で春の1日をお楽しみください。

開催場所 ● みゆき公園梅林園

問合せ先 ● (社)嬉野温泉観光協会 ☎0954-43-0137

## 志田焼の里博物館 ひなまつり展

●2月下旬～3月上旬

ひな祭りにちなんで、一般公募した「ひな人形陶芸教室」の参加者のひな人形を飾ります。また、お抹茶とお菓子のもてなしもあります。

開催場所 ● 志田焼の里博物館

問合せ先 ● 志田焼の里博物館 ☎0954-66-4640



## 吉田おやまさん陶器まつり

●4月上旬

400年の伝統を持つ肥前吉田焼の窯元市。各窯元自慢の品の展示即売や楽焼コーナーでオリジナルの器作りを楽しめます。

開催場所 ● 肥前吉田焼窯元協同組合

問合せ先 ● 肥前吉田焼窯元協同組合 ☎0954-43-9411

## うれしの茶ミット

●4月上旬

新茶のシーズンを前にうれしの茶のPRをかねて開催。新茶のふるまいや手揉み実演・体験、お茶摘み体験、スタンプラリーなどさまざまな楽しいイベントがあります。

開催場所 ● 嬉茶茶館

問合せ先 ● 嬉野市茶業振興課 ☎0954-42-3308



## 嬉野芸能組合花おどり

●4月上旬

艶やかな芸妓さんが、嬉野市内各所で舞を披露します。嬉野温泉芸能組合の芸妓さん的一条乱れぬ舞は一見の価値ありです。

開催場所 ● 嬉野市内

問合せ先 ● 観光嬉野温泉芸能組合 ☎0954-42-0570

## 塩田お山さんまつり

●4月5日

旧蓮池藩鍋島甲斐守直澄公を祀る。吉浦神社は、ツツジ、桜の名所でもあり、当日は面浮立等の郷土芸能や踊りなどが披露され、露店が立ちます。

開催場所 ● 吉浦神社



## 志田焼の里博物館春まつり

●5月3日～5日

端午の節句にちなみ志田焼の里博物館では、いろいろな楽しい催し物を用意してお待ちしています。ゴールデンウィークの思い出作りに、ご家族でお出かけください。

開催場所 ● 志田焼の里博物館

問合せ先 ● 志田焼の里博物館 ☎0954-66-4640

## 嬉野温泉 土曜風鈴夜市

●7月の土曜日

嬉野の夏の風物詩。本通り商店街が歩行者天国となり、出店やゲームなど子どもから大人まで楽しめる催しが盛りだくさん。また、各商店の店先には肥前吉田焼の風鈴を飾ります。

開催場所 ● 嬉野町本通り商店街

問合せ先 ● 嬉野温泉商店街協同組合 ☎0954-43-1115

## うれしカーニバル

●8月10日

夏まつりの前夜祭として、「うれしのほほん湯・遊・YOU」などの軽快なリズムに合わせて踊る参加型イベント。町民、観光客の皆さまの飛び入り参加大歓迎です。

開催場所 ● 嬉野町本通り商店街

問合せ先 ● 嬉野市観光商工課 ☎0954-42-3310

## 塩田夏まつり

●8月16日

塩田町の夏の風物詩。塩田町の商店街通りを中心に行われる餅つきや総踊りなど、全体で盛り上がるイベントも盛り沢山。また、塩田川の水面に映る1,400発の花火が夏の夜を彩ります。

開催場所 ● 塩田町商店街通り

花火場所 ● 塩田川河川敷

問合せ先 ● 嬉野市商工会 ☎0954-66-2555

## 塩田くんち(丹生神社例祭)

●11月2日・3日

祭神は罔象女神(ミズハメノカミ)で仁明天皇(承和2年、西暦835年)から塩田郷の氏神として崇拝され、例祭は神輿を中心に、道踊りや獅子舞、面浮立等で行列をなし、2.5キロメートルはなれた下の宮を2日間往復します。初日の夜は下の宮一帯に多くの出店が立ち並び、賑います。

開催場所 ● 丹生神社

問合せ先 ● 丹生神社 ☎0954-66-3859

## 嬉野温泉秋まつり「産業祭」 「湯どうふフェスタ」

●11月3日

嬉野温泉商店街一帯で、湯どうふのふるまいや豆腐大食い選手権、芸能組合の芸奴さんによる踊りの披露、また地元産の新鮮農特産物が数多く並びます。また懐かしいポン菓子やつきたてのお餅などが無料で味わえます。

開催場所 ● 嬉野温泉商店街

問合せ先 ● (社)嬉野温泉観光協会 ☎0954-43-0137



## 吉田焼辰まつり窯元市

●11月上旬

吉田皿山の先人達からうけつがれている辰まつりは、水の神様の八大龍王さんのお祭りです。年に一度、豊かな水に感謝しつつ、陶器、お茶など嬉野ならではの特産物を一同に集め販売します。

開催場所 ● 肥前吉田焼窯元会館及び各窯元会場

問合せ先 ● 肥前吉田焼窯元協同組合 ☎0954-43-9411

## 志田焼の里博物館秋まつり

●11月中旬

いろいろな展示や体験コーナーのほか、つきたてのお餅やだご汁のおふるまいなどがあります。

開催場所 ● 志田焼の里博物館

問合せ先 ● 志田焼の里博物館 ☎0954-66-4640

## 八天神社お火たき・例大祭

●12月中旬

八天神社は、八天狗社、唐船権現とも称され、修験の坊として創始された古社です。近世には、火伏せの神として肥前ではあつく信仰されました。例大祭では、お札やお神酒をもらい受け、1年間の安全を祈願します。お火たきとは、火災鎮除の恒例のお祭りです。ふるいお札を燃やした後、お神酒や甘酒などがふるまわれます。

開催場所 ● 八天神社

問合せ先 ● 八天神社 ☎0954-66-4205

## 大晦日カウントダウン

●12月31日

シーボルトの足湯前の湯遊広場で、観光客と嬉野の人たちがふれあいながらカウントダウンで新年を迎えるイベントです。ふるまいの地酒、ぜんざいなどを味わい、和気あいあいと新年を迎えましょう。

開催場所 ● 湯遊広場(嬉野温泉本通り)

問合せ先 ● 嬉野温泉商店街協同組合

☎0954-43-1115





## みゆき公園 梅林園

敷地一面に芝が張られた嬉野市民の憩いの場所・みゆき公園。園内にある梅林園では、早春に紅白の梅やしだれ梅など、18種約400本の梅がかれんな花を咲かせ、芳しい香りを放ちます。「梅まつり」も開かれます。

■場所／嬉野町下宿  
嬉野インター近く



## 嬉野川遊歩道

温泉旅館が建ち並ぶ嬉野川沿いに約2kmの遊歩道があり、それにぴったり寄り添うように桜並木が続きます。満開の美しさ、桜の花びらが水面にはらはらと落ちるはかなさ、新緑の鮮やかさを楽しんでください。

■場所／嬉野町嬉野川沿い



## 納戸科の百年桜

肥前吉田焼で知られる吉田地区の茶畑が続く丘に、凛と立つ1本の桜。樹齢は100年を超え、高さ13m、枝張りは20mの八重のヤマザクラです。誰が植えたのか—ミステリアスさが淡いピンクの花をより美しく見せるようです。

■場所／嬉野町吉田



## 轟の滝・轟の滝公園

数百万年前の火山活動でできたと言われる落差11m、滝つぼの面積約2,500㎡の平坦地にある珍しい滝。肥前風土記(8世紀)にも記述があることから昔から知られた滝だったことがわかります。周辺は公園として整備されています。

■場所／嬉野町下宿内



## 吉浦神社の桜

吉浦神社は、春は桜やツツジの名所として知られています。吉浦神社は旧蓮池藩祖鍋島直澄公を祀っていますが、領民に愛され「お山さん」という呼び名で親しまれています。参道の桜が見頃となる4月には「お山さんまつり」が開催されます。

■場所／塩田町五町田



## 春日溪谷

多良岳から清流が注ぎ込む吉田川の上流、標高約500mにある溪谷。夏でもひんやりとした涼風が溪谷を渡り、流れ落ちる川のせせらぎが耳に涼しく響きます。秋にはモミジが色づき溪谷全体が美しく紅葉する風景は必見です。

■場所／嬉野町吉田春日



## ふれあいふじ棚通り

長崎自動車道嬉野ICを下りてすぐ。嬉野を訪れる人を歓迎するかのように藤棚が続きます。その距離は実に約630mで、日本一とも言われています。見頃は4月下旬頃から。薄紫色に染まる藤棚の下を歩きませんか。

■場所／嬉野町下宿甲



## ひろこうら 広川原キャンプ場

春日溪谷に程近く、多良岳の中腹の緑に囲まれた静かな場所にあるキャンプ場。湖畔にはバンガロー、オートキャンプサイトのほか別荘気分が味わえるコテージもあり、大人も子どもも手軽に自然を満喫できます。

■場所／嬉野町吉田広川原  
問合せ／嬉野市農林課  
☎0954-66-9119



## 嬉野名木古木

春日溪谷の大桂  
場所／嬉野町吉田春日



豊玉姫神社のクスノキ  
樹高／18m 幹周／2.5m  
場所／嬉野町温泉1区



瑞光寺のクスノキ  
樹齢／800年 樹高／22m 幹周／5.6m  
場所／嬉野町温泉2区  
〔市天然記念物〕



嬉野の大茶樹(チャノキ)  
樹齢／340年 樹高／4.6m  
場所／嬉野町不動山上不動  
〔国天然記念物〕



大野原野外運動場のクワ  
樹高／11m 幹周／2.9m  
場所／嬉野町大野原  
〔市天然記念物〕



春日大明神の大イチョウ  
樹齢／580年 樹高／38m 幹周／5.5m  
場所／嬉野町吉田春日  
〔市天然記念物〕



# アクセスマップ



## ■ 車でのご案内

福岡 … 約90分 … 嬉野 … 約80分 … 有明佐賀空港  
 熊本 … 約140分 … 嬉野 … 約35分 … 長崎空港  
 長崎 … 約60分 … 嬉野 … 約90分 … 福岡空港

## ■ その他の交通のご案内

飛行機  
 東京 > 有明佐賀空港 … 約1時間50分  
 東京 > 長崎空港 … 約1時間50分  
 東京 > 福岡空港 … 約2時間  
 大阪 > 長崎空港 … 約1時間15分  
 大阪 > 福岡空港 … 約1時間10分

列車・バス  
 広島 → 博多(新幹線) … 約1時間10分  
 博多 → JR武雄温泉駅(特急列車) … 約1時間  
 博多 → 嬉野温泉(高速バス) … 約1時間50分  
 JR武雄温泉駅 → 嬉野温泉(バス) … 約30分  
 福岡空港 → 嬉野温泉(高速バス) … 約1時間20分  
 天神 → 嬉野温泉(高速バス) … 約1時間40分



### 嬉野の新名所

### シーボルトの湯(公衆浴場)

嬉野町下宿 ☎0954-43-1426  
 入場料 / 中学生以上400円、小学生は200円  
 貸切湯2,000円(50分)  
 営業時間 / 午前6時～午後11時 [最終入場受付]  
 休館日 / 毎月第3水曜日 [午後10時30分]

毎月第3水曜日は  
 旅館・ホテルの  
 立ち寄り湯が半額!

※詳しくは、各温泉施設まで

うれしのエリア

オススメ  
 情報

発行 嬉野市観光商工課 TEL0954-42-3310  
 問合せ (社)嬉野温泉観光協会 TEL0954-43-0137  
 佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙2202-55



## スタンプ帳つき温泉チケット

お得な「湯遊チケット」は嬉野温泉観光協会でご好評販売中